

大学名 岡山大学

表題 学校と地域の持続可能な活性化を目指す「岡山県北地域教育プログラム」

特色ある取組: 地域学校協働を推進する人材の協創的教員養成

本学は、2018年度から、少子高齢化や人口減少、さらには教員不足といった課題を抱える岡山県北の学校現場や地域の実態をふまえ、地域学校協働の観点から学校と地域の活性化を目指す「岡山県北地域教育プログラム(25名の学校推薦型選抜I)」を、岡山県教育委員会並びに岡山県北の市町村教育委員会と連携して実施しています。本プログラムを履修する学生は、岡山県北地域(12市町村)からホームタウンを選択し、当該地域で教育実習やフィールドワーク等の実践的な学びを積み重ねます。こうした実習系科目と運動して、大学では講義系科目が設定され、理論と実践の架橋・往還を促そうとしています。

卒業後は、岡山県公立学校教員採用候補者選考試験を地域枠で受験することを目指します。2022年度には、第1期生の100%(教職大学院進学者を除く)が教員となり、直近の2024年度の卒業生(学校教育教員養成課程小中学校3期生)の教員就職率も93.3%と高い教員就職率を維持しています。地域学校協働という志や知識・スキルを持った人材が教育界に輩出されることになり、学校と地域の課題解決に向けて更なる一歩を踏み出すこととなります。

また、本プログラムは、2024年3月に文部科学省がまとめた「グッドプラクティスの共有と発信に向けた事例集」の「教員就職率向上」において、教員養成大学等の特色ある先進的な取組として紹介されています。

期待できる成果・評価など

本プログラムは、岡山県北地域の教員不足を解消するだけでなく、各教育委員会とも連携をしながら現職教員の研修も行なっています。本プログラムを受講した学生が教員になるだけではなく、卒業生が起点になり地域で活動している人や保護者と連携し、持続可能な形で地域学校協働が展開されるようになってきました(写真1)。このように養成と研修を関連づけていく取組は、文部科学省からも評価され新たな予算枠組みがなされるようになっています。本プログラムも2024年度、文部科学省「地域教員希望枠を活用した教員養成大学・学部の機能強化事業」に選定され、事業を幅広く展開しています。また、高校生等に対して教職を促す取組(在学生や卒業生との交流:写真2)をはじめとした高大連携にも積極的に取り組んでいます。さらには、書籍等によって本取り組み事例を広く社会に発信することによって、他大学のロールモデルとなり全国的な教員不足や過疎地域における学校教育の質保障に向けて一役を担っています。

このように、本プログラムによる「教員養成段階」を中心に、高大連携による「養成前段階」と卒業後の「教員研修段階」、さらには卒業生による各学校での「次世代への指導育成段階」も運動させて、持続可能な未来社会に向けた「育てる一育てられる」の大きなサイクルを促し、「教員養成地域循環システム」の構築も目指して取組を推進しています。

「地域学校協働活動」を核にした学校教育と社会教育の一層の連携・協働により、学校と地域双方の持続可能な活性化を志向していく教員を養成

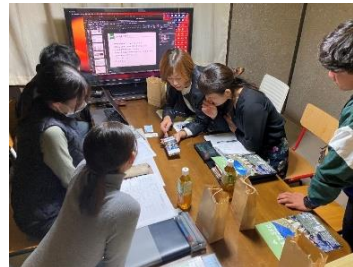
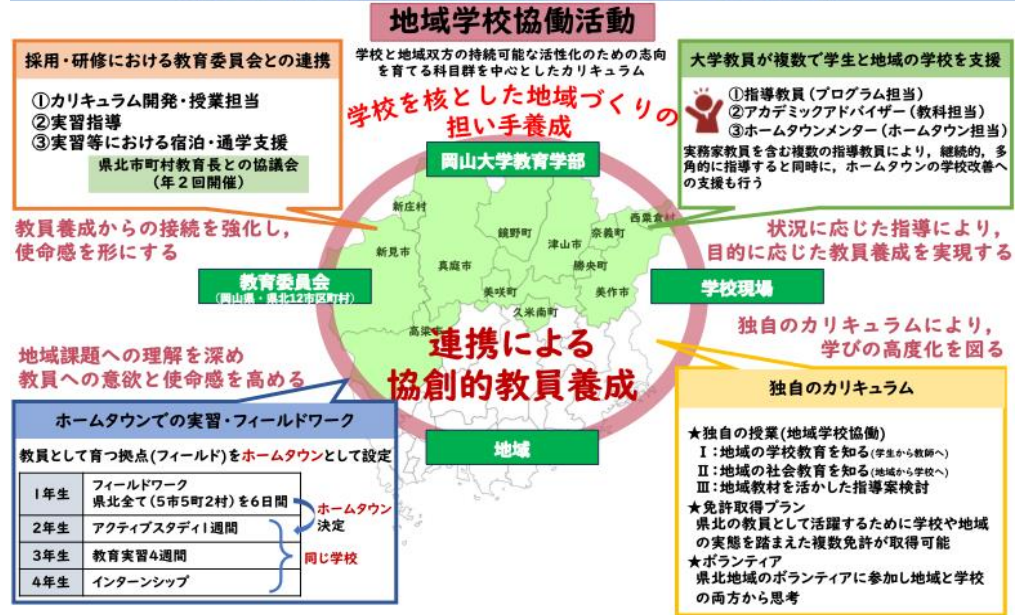


写真1: 卒業生と地域の教育人材が、地域学校協働としてどのような取組ができるかのディスカッションの様子



写真2: 岡山県北地域で教職を希望する高校生と卒業生(現役若手教員)との座談会の様子